

科目名	地域福祉と包括的支援体制 I					担当教員	中島修		
学年	2年	クラス	1	開講学期	前期	開講時期	前期	曜日・時限	月5
授業の目的	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学習した上で、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念を理解する。また、地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について学習し、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。そして、地域福祉における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することを目的とする。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。 2. 地域に福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念について説明できる。 3. 地域福祉を推進するための福祉行財政の実施体制と果たす役割について説明できる。 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的および展開について説明できる。 5. 地域福祉と包括的な支援体制の取組における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を説明できる。 								
到達目標	<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>地域福祉の動向を踏まえ、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念を理解しつつ、地域福祉を推進するために福祉行財政、地域福祉計画をはじめとした福祉計画を理解する。その上で、包括的支援体制の考え方と地域生活課題を踏まえ、地域福祉と包括的支援体制における具体的な取組を学んでいく。</p> <p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉と包括的支援体制の基本的な考え方の理解 – オリエンテーション – 2 地域福祉の歴史と具体的な展開の理解 3 地域福祉の動向の理解（コミュニティソーシャルワーク、地域再生、ケアリングコミュニティ） 4 地域福祉の推進主体（地方自治体、社会福祉協議会、民生委員等）と対象の理解 5 地域福祉の主体（地域住民、ボランティア、当事者等）と住民の主体形成概念の理解 6 地域福祉を推進する福祉行政の役割 I（国の役割、法定受託事務と自治事務） 7 地域福祉を推進する福祉行政の役割 II（都道府県と市町村の役割） 8 地域福祉を推進する上での国と地方の関係 9 地域福祉を推進する福祉行政の組織及び専門職の役割 10 地域福祉を推進するための公的財源と民間財源 11 地域福祉を推進するための福祉計画の意義と目的及び展開 12 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容と地域福祉活動計画 13 地域福祉を推進する福祉計画の意義と種類、策定と運用 14 地域福祉を推進する福祉計画の実施と評価 15 全体のまとめ 								
学習演題	<ol style="list-style-type: none"> 第 1～4 回目は、予習として、教科書の第 1 章と第 2 章 pp.1～40 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度） 復習として、授業内で触れた内容について、キーワードおよび事例を整理してまとめておくこと（90 分程度）。 第 5～7 回目は、予習として、教科書の第 3 章・第 4 章・第 5 章 pp.41～87 をよく熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度）。 復習として、授業内で作業をしながら考えた地域や生活圏の捉え方を復習し、地域とはどのようなものが整理しておくこと（90 分程度）。 第 8～9 回目は、予習として、教科書の第 6 章・第 7 章 pp.88～112 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度） 復習として、地域福祉の理論編であるため、わからない用語を調べ、地域福祉の考え方が理解できるように整理しておくこと（90 分程度）。 第 10～12 回目は、予習として、教科書の第 12 章 pp.221～225 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度） 復習として、福祉教育については、授業内で資料を配布するため、視聴覚教材やパワーポイント資料を読み返し整理しておくこと（90 分程度）。 第 12～15 回目は、予習として、教科書の第 8 章 pp.113～132 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度） 復習として、地域福祉の方法論に入るため、授業内で見た視聴覚教材やパワーポイント資料を読み返し整理しておくこと（90 分程度）。 第 16～17 回目は、予習として、教科書の第 8 章 pp.113～132 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度）。 復習として、コミュニティソーシャルワークの考え方を整理し、理解できるように整理しておくこと（90 分程度）。 第 18～20 回目は、予習として、教科書の第 9 章・第 10 章 pp.133～161 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度）。 復習として、地域福祉を進めるインフォーマルな組織とくみの理解として内容が細くなるため、1 つずつ丁寧に整理しておくこと（90 分程度）。 第 21～23 回目は、予習として、教科書の第 11 章・第 12 章 pp.163～230 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度）。 復習として、コミュニティソーシャルワークの具体的な援助方法などわからない用語などを整理して質問できるようにしておくこと（90 分程度）。 第 24～26 回目は、予習として、教科書の第 13 章・第 14 章 pp.231～263 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度）。 復習として、地域包括ケアシステム、貧困問題、住民主体の活動等、時事問題を復習し整理しておくこと（90 分程度）。 第 27 回目は、予習として、教科書の第 15 章 pp.265～278 を熟読し、地域福祉財源としての公的財源と民間財源の問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度）。 復習として、授業内で触れた地域福祉財源の課題に関心をもち、ふるさと納税やクラウドファンディングなどについて自ら意欲的に問題を調べてみる（90 分程度）。 第 28～29 回目は、予習として、教科書の第 16 章 pp.279～298 を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探して頂くこと（90 分程度）。 復習として、授業時に配布した資料に基づいてイギリスを中心とした欧米の実践と韓国などの東アジアの実践を分けて整理しておくこと（90 分程度）。 第 30 回目は、定期試験を行うため、予習として、これまで学んできたことを整理し、わからない用語や理解が不十分な事項を見直しておくこと（90 分程度） 復習として、定期試験に出題された内容を振り返り、将来の国家試験対策にもつながるよう間違えた問題とできた問題とをそれぞれ整理しておくこと（90 分程度）。 								
授業方法	<p>講義形式をとる。パワーポイントによる講義を中心として、講義用の資料を配布する。適宜、福祉現場を理解するため視聴覚教材も活用する。毎回、リアクションペーパーの提出を求める。</p> <p>アクティブラーニングとして、授業内で学生に課題を提示して記述をさせ、発表する機会を設ける。その学生のプレゼンテーションに対して、授業内で教員から助言、指導のフィードバックを行う。</p>								
成績評価	<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>ミニレポートの提出状況や内容（30%）、期末試験（70%）により、到達目標に基づいて総合的に評価する。</p>								

の基準	〈フィードバック方法〉 授業内のミニレポートについては、講評を授業内で示す。
教科書	ISBN9784641150751「ストーリーで学ぶ地域福祉」加山弾・熊田能喜・中島修・山本美香共著、有斐閣、2020年
参考書	ISBN9784793513589『地域福祉と包括的支援体制（社会福祉学習双書）』社会福祉学習双書編集委員会著（中島執筆）、全国社会福祉協議会、2021年